愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	学園理念から読み解く現代社会		
担当者(Instructors)	榊 直樹	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

創立百年を超えた東邦学園は、建学の精神に「真に信頼して事を任せられる人格の育成」、校訓に「真面目」を掲げ、教育に当たっている。創設時の下出義雄初代理事長は「きわめて平凡な言葉ではあるが、同時に千古の真理であり人間精神の根本である。雋敏（しゅんびん）な才子よりも着実にして円満な常識あり気力ある人物、真に信頼して事を任せうる人格を作り上げたい」と語った。１世紀後の今、亀裂と分断が深まり、最良の在り方と考えられてきた民主主義は脆さを露呈し、専制的な思考・独裁者によって危機に瀕する。そうした相互不信と敵対の時代には、国・民族・文化・宗教の壁を乗り越える「架け橋」を築くことである。その基盤となるのは私たち学園の理念である。多様な価値が交錯する現代社会をどう読み解くのか。歴史の教訓を踏みにじる侵略や紛争が起き、予測不能、正解を見いだせないこの先、「よすが」となる生き方を探ってほしい。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	現代社会を読み解くに当たって、様々な制度や課題、考え方はどんな歴史を経て今に至ったのか。資料や過去の映像、テキストを使って、時系列的に、諸課題のポイントを整理しながら説明する。テキストの『ニュース検定』は大学生に必須の社会常識を掲載しており、就職対策としても学んでほしい。講義では、簡易なプレゼンテーションを通じて受講者の意見も聞き、レポートを毎回提出してもらう。自分がもしその立場、その時代に生きていたらどう考えて行動するかを問う。正解を求めるより、自らに問いを発する機会としたい。現在の国際情勢などにも関心を持つよう、新聞記事を使った時事解説も行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	講義の目的と、ウクライナ侵攻さらにパレスチナ問題	ウクライナ侵攻は2022年２月24日の攻撃以来２年以上続く。鉾を突き続けるロシアに領土拡大野心を収める見通しはない。さらに2023年10月７日、パレスチナで過激派ハマスが奇襲をかけ、イスラエルは「10倍返し」で反撃、２万余人の犠牲者はなお増え続ける。なぜこの事態に至ったのか。民主主義か専制政治か、国家の防衛や民族の自決のためならいかなる行為も許されるのか。世界を揺るがし続ける情勢を考えてみよう。	□
第2回	学園創設者・下出民義先生の人となりと足取り	創設者の下出民義は幕末の泉州生まれ。数えの15歳で小学校を独り任され、石炭商から実業界に進んだ。名古屋に移って福沢桃介と出会い、電力開発、鉄道網整備、製鋼所設立に携わり、貴族院議員も務めた。１世紀前、東邦商業はなぜ「真の信頼」「真面目」を掲げたのか。	□
第3回	中国大陸侵略から太平洋戦争そして学徒出陣	東邦商業は創立から11年の1934年に野球部が春の甲子園で初優勝し、全国に名を馳せた。一方で日本は1931年に満州事変を起こし、軍靴の足音が強まる。戦地へ送られる若者が増え、学生までが特攻に向かう。勤労動員先は空襲に遭い、東邦商業も生徒と教員も犠牲となった。家族や国の行く末を思う学生の遺書を読み、時代の空気を想像してみる。	□
第4回	教育勅語から教育基本法へ　国家と個人の関係は	「教育は誰のためのものか」。教育制度は、明治から敗戦時までと、戦後ではどう変わったか。戦地、勤労動員先、疎開先から人が戻り、ベビーブームが起きる。１９５０年代後半から児童が一挙に増え、集団就職、高校進学、さらに大学進学者増となる。富国強兵、教育勅語から特攻にまで赴かせた教育観と、戦後の教育基本法を比較し、国家と個人の関係を考える。	□
第5回	日本国憲法の明日／民主主義を考える	憲法は施行から77年、憲法の根本原理・民主主義は、コロナ対策とウクライナ侵攻をめぐり、世界中で揺らいだ。平和主義の専守防衛を定めた憲法９条も、近隣の国際情勢やウクライナ支援をめぐり岐路に立つ。	□

第6回	冷戦時代と６０年・７０年安保、学園紛争	世界は第二次大戦後で、最悪の国際情勢に陥り、分断と敵対感情が渦巻く。35年前まで、米国と旧ソ連は核兵器＝今はロシアが保持＝を背景に世界の覇権を競う冷戦が続いていた。日本政治にも投影し、日米安保条約改定をめぐって国論が激化、デモ参加学生に死者もでた。ベトナム戦争、日米安保、沖縄返還から学園自治と、日本中の大学が荒れ続けた。	□
第7回	高度成長から衰退が続く「失われた30年」	高度成長期、賃上げは２万円を越えた一方、公害も広がった。経済成長最優先の意識と仕組みは、最後にバブルに踊り狂い、日本を人口減少と共に破綻と長い低迷の時代に入った。就職では超氷河期が続いた。「失われた30年余」を振り返る。	□
第8回	企業の行動規範と社会的責任	世界に冠たる高品質の代名詞だった「メイドインジャパン」は、消費者を裏切る不正行為によって、信頼が揺らいでいる。企業は行動規範と社会的責任が問われている。業績の粉飾や産地、品質、強度などの偽装、リコール隠しが相次ぐ。「信頼」と「真面目」の精神から見た企業の在り方とは。	□
第9回	今の日本の政治は国民からの「信頼」に値するか	旧くて新しい「政治とカネ」の問題は、いま自民党の派閥や国会議員の「裏金事件」＝政治資金規正法違反＝によって、再び国民の怒りを買っている。民主主義国家の重要な舵取りを託す政治に対し、特に若者の関心の低さも問題である。このままでいいのか？	□
第10回	変わる日本の産業・貿易、働き方	隆盛だった繊維など軽工業は新興国に生産拠点が移り、家電・自動車・鉄鋼など重厚長大産業も国内市場が縮小した。かつて名を馳せた企業は倒産か身売りか業種の転換を迫られ、ニッポンの成長を支えた年功序列・終身雇用制度は崩れる一途だ。モノづくりと入れ替わるIT産業。働き方は３年続いたコロナ感染症によって大きく変りつつある。	□
第11回	深刻な人口減少と向き合う	日本は1980年代、米国に次ぐ世界第２位の経済力を誇ったが、かつての高度成長を支えた「団塊の世代」が第一線を退き、後期高齢者に差し掛かった。個々人にとって幸せだったはずの「長寿」が、社会全体には幸せをもたらしていない。出生者数も減り、特に地方で人口減少が著しい。様々な分野の衰退傾向にどう向き合ったらよいのか。	□
第12回	社会保障の将来は	年金と医療保険制度は、平均寿命が八十歳を超す時代となり、増え続ける支出に立ち往生している。それに拍車をかけるのは急速な少子化である。さらに「人生百年時代」へ向かうに当たって、何歳まで働き、いくら年金が受け取れるのか。老後の蓄えには2000万円必要は本当か。	□
第13回	「真面目」はスポーツにおいても必要か	スポーツが勝ち負けを競うとき、「フェアプレイ」にどれほどの価値があるのか。国威発揚、高収入のため、薬物の力を借りてなぜ悪いのか。他方で高校野球の勝負を度外視した直向きなプレーに、なぜ拍手するのか。	□
第14回	これからのエネルギー／地球環境を守るために	大災害、命の危険すらある夏の猛暑、氷河の溶け出しによる海面上昇など、地球温暖化対策が求められる中で、化石燃料を多く使う日本に国際的非難が集まる。「カーボンニュートラル」への方策、福島原発事故の教訓はどう生かすのか。単純な解がないエネルギー問題を考える。	□
第15回	振り返りとまとめ	18歳以上に達して「成人の扱い」を受ける学生の皆さんは、選挙権の行使に加えて、多くの権利と責任への自覚を大人と同等に求められる。皆さんに社会が抱く期待感は、自立的で若々しい積極的な行動であろう。それには信頼と、少し無謀でも直向きさではないか。学園が大切にする理念について講義を振り返りつつ、まとめをする。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

シラバスに沿って、事前に配布する次回テーマの資料やテキストを講義前に読む（2時間）。 事後学習として、毎回示す歴史上のキーワードについて復習をする（2時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回、講義を踏まえて、その場で提出を義務付けるレポートに関して、コメントをする。受講者を励まし、称えると共に、物事を一層多面的、多角的に捉えて、深く考える姿勢を促す。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	**◆ 2019全学共通DP1**	歴史、社会の諸制度等に関して幅広い知識の習得と活用を目指し、学園が生まれた1世紀前からの歴史をたどって、現代を見つめ直す眼を養い、平和な現代に生きる意味を噛みしめ、社会のために貢献する意味を考えられる。校訓と建学の精神を現代的に理解できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
55%				45%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の講義では、受講者の考えを問う概ね二つの設問を出すので、配布する所定の課題レポートに、講義時間内に記述し提出してもらう。これは出席の確認も兼ねる、必要字数に達しない場合は、出席扱いとしない場合がある。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	ニュース時事能力検定試験2024　公式テキスト「時事力」発展編（1・2・準2級対応）	9784620907611
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	ジョージ・オーウェル著　『一九八四年』（ハヤカワ文庫）	9784151200533
2	「もういちど読む　山川日本史」（山川出版）	4634590905
3		
4		
5		